

須坂市で再確認された長野県絶滅種スギナモ（スギナモ科）の自生

大塚孝一*・尾関雅章*・宮入英治**

近年、観察や自生の記録がなく、『長野県版レッドデータブック維管束植物編』で絶滅種とされた沈水・抽水植物のスギナモの自生が、長野県北部の須坂市内で、2004年6月に再確認された。生育地は5ヶ所あり、いずれも人家付近の湧水由来の小川であった。

キーワード：スギナモ，スギナモ科，絶滅危惧，須坂市，長野県

1. はじめに

著者の一人、宮入英治は1990年代の半ばに須坂市内でスギナモ *Hippuris vulgaris* L. が自生していることに気づき、その後刊行された『長野県版レッドデータブック維管束植物編』¹⁾に記載があり、この種が長野県絶滅種であることを知った。2004年に著者らは現地調査を行ったので、絶滅したとされた植物の自生確認とその生育状況を報告する。



2. スギナモについて

スギナモ科 Hippuridaceae はスギナモ属 *Hippuris* L. 1属からなり、北半球の寒冷な地域に2～3種が分布している。日本では、北海道、本州中部以北にスギナモが分布し、近年、北海道厚岸湖で、ヒロハスギナモ *Hippuris tetraphylla* L. が発見されている。スギナモは湖沼や湿原、河川などに生える多年生の沈水、抽水植物で、地下茎が匍匐し、節から水中茎が伸びる。流水中では流れになびく沈水植物となり、止水域では茎の上部が気中に立つ抽水植物となる。茎は軟質で長さ10～60 cm。葉は各節に6～12個輪生する。沈水葉は線形で薄く緑褐色、長さ2～6 cm、幅1.5～3 cm。気中葉は厚みがあって線形～披針形、沈水葉より短く、長さ5～15 mm、鋭頭、ともに鋸歯がない。花期は6～8月。花は気中葉につく²⁾。



図1 スギナモの生育地（上）と生育状況（下）（須坂市2004年7月）。

日本では、北海道の他、青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、群馬県で知られている。長野県に最も近い産地は、群馬県尾瀬が原³⁾で、長野県は分

布の西南限にあたる。長野県では下水内、上水内、上高井、下伊那郡で記録があるとされるが、1962年に須坂市で採集された以後は、確認されていなかった⁴⁾。このことから、『長野県版レッドデータブック維管束植物編』では、絶滅種（すでに絶滅したと考えられる種）とされた。

* 長野県環境保全研究所 自然環境チーム 〒381-0075 長野市北郷2054-120

** 飯綱中学校

3. 自生の確認と生育状況

2004年6月21日、須坂市塩川地区、日滝地区、幸高地区などの5ヶ所で、スギナモの自生を確認した。証拠標本：スギナモ、長野県須坂市塩川（大塚孝一・尾関雅章 s.n., 2004年6月21日, NAC, SHIN）。

生育地は、須坂市の扇状地末端近くの湧水付近の小川である（図1）。周辺は人家で、保護には周囲の住民の理解が不可欠となる。

なお、スギナモは、『長野県版レッドデータブック 維管束植物編』で絶滅種として扱われたが、今後は絶滅危惧種に相当する植物となる。長野県内で確認されている自生地は、須坂市のみであるため絶滅の危険にある。河川掃除などで一掃される心配がある

が、現在は須坂市役所や地区区長などにより、希少な植物であることを住民に理解していただくよう働きかけ、保全の取り組みがなされている。

文 献

- 1) 長野県（2002）長野県版レッドデータブック—維管束植物編，297 pp，長野。
- 2) 角野康郎（1994）日本水草図鑑，179 pp，東京。
- 3) 群馬県（1987）群馬県植物誌改訂版，604 pp，群馬。
- 4) 清水建美編（1997）長野県植物誌，信濃毎日新聞社，1735 pp，長野。

Rediscovery of *Hippuris vulgaris* L. (Hippuridaceae) from Suzaka City, northern Nagano Prefecture

Koichi OTSUKA*, Masaaki OZEKI and Eiji MIYAIRI

* Nagano Environmental Conservation Research Institute, Natural Environment Team, 2054-120 Kitago, Nagano-shi, 381-0075 Japan.